

給食カボチャ倍増へ

JA東京 むさし TACCら農家巡回

【東京むさし】JA東京むさし小平支店指導経済課は、市内の保育園、小・中学校の給食で使用するカボチャの増産に向けて、本店の担い手に向くJA

担当者（愛称TACC）と連携した農家巡回に取り組んでいる。昨年度は前年比44%増の2



カボチャの生育確認をする本店TACCと朝日アグリ職員（東京都小平市で）

77・8^ポを納品し、本年度は依頼するカボチャの苗を昨年の倍にし、600^ポの納品を目指す。

毎年6月下旬に開かれる市内の保育園、小・中学校の学校給食イベント「小平夏野菜カレーの日」に使うカボチャを安定供給するため、同課が中心となり昨年度から始めた取り組みだ。

カボチャは市内の園芸農家が苗を作り、10人の野菜農家が生育管理する。品種は、朝日アグリ（株）が開発した「プリメラエース」と「プリメラヒスタ」を使用。どちらも早生品種で果実は1・8^ポ以上となり、6月ごろに収穫できる見込みだ。4

月上旬には、定植を終えた8戸の生産者の元を、本店TACCと朝日アグリ（株）の職員が巡回し、生育状況の確認や栽培方法の指導などを行った。

巡回を担当しているJA小平支店指導経済課の井出夢月職員は「地元の野菜を学校給食で使うことで地産地消が進み、地域の農業を支えていきたい。子どもたちが地元の農産物に親しむ機会が増え、食農教育につながってほしい」と話した。